《非売品》

いばらき童子

絵 元井　進
文 宇津木秀甫

《非売品》

京にいる茨木童子の歌

はなざかり
花びらが
ひといっぱい
ひとごみに
おもうのは

京のみやこで
鴨川に散るよ
五條大橋
まぎれていても
生まれ故郷よ

人びとに
でもわしは
かくれがの
空をみる
茨木の

まぎれこみたい
あいてにされん
羅生門で
茨木の方
子供やさかい

わしは人
けど鬼と
かえりたい
ふるさとの
信じるよ

人間や
あいてにされん
茨木村へ
ひとはやさしい
茨木のひとを

この本を読まれるみなさんへ

「いばらき童子」は、古くから茨木地方に伝えられてきたお話を、新しい物語に書きなおされたものです。

この本には、「はがはえそろおた」や「もどってしもおた」など、みなさんが聞きなれない言葉で書かれていますが、これはこの地方で使われてきた特別の言い方で書かれているからです。

みなさんが使う場合は、「はがはえそろった」や「もどってしまった」になりますので、このことを頭において読書を楽しんでください。

ご指導いただく先生方へ

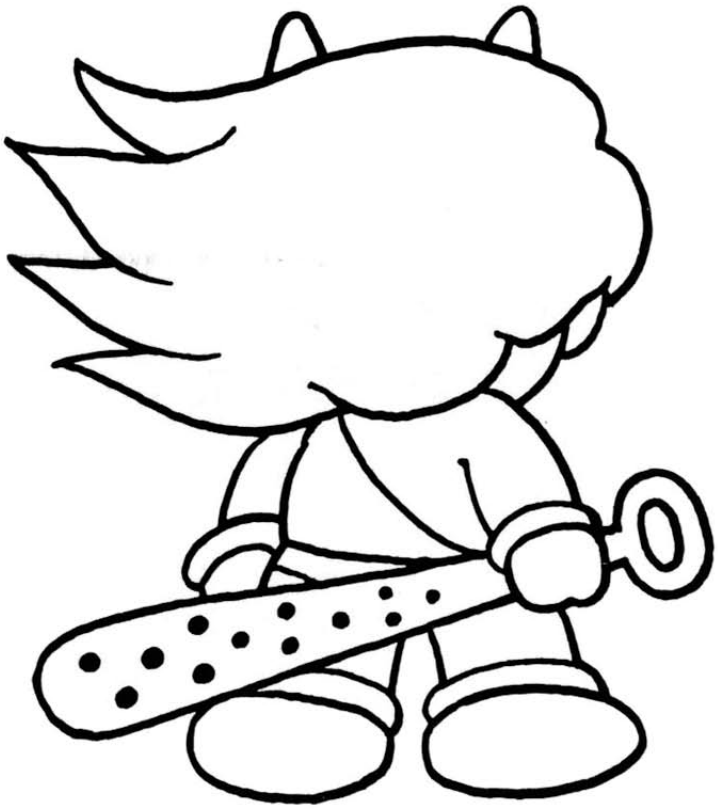
この絵本は、茨木地方に古くから伝わる伝説をもとに書き下ろされた創作民話です。

民話の文体は、その土地の風土や人々の生きざまをそのまま読み手に伝えるために、ふつうは方言を生かした独特の表現で書かれています。したがって、「はがはえそろおてた」「もどってしもおた」のような聞きなれない表現がされていますが、「はがはえそろってた」「もどってしまった」などの方言的な表現とご理解いただきたいと思います。

なお、教材などでご活用いただきます場合は、指導上ご留意いただきますようお願いいたします。

《非売品》

いばらき童子

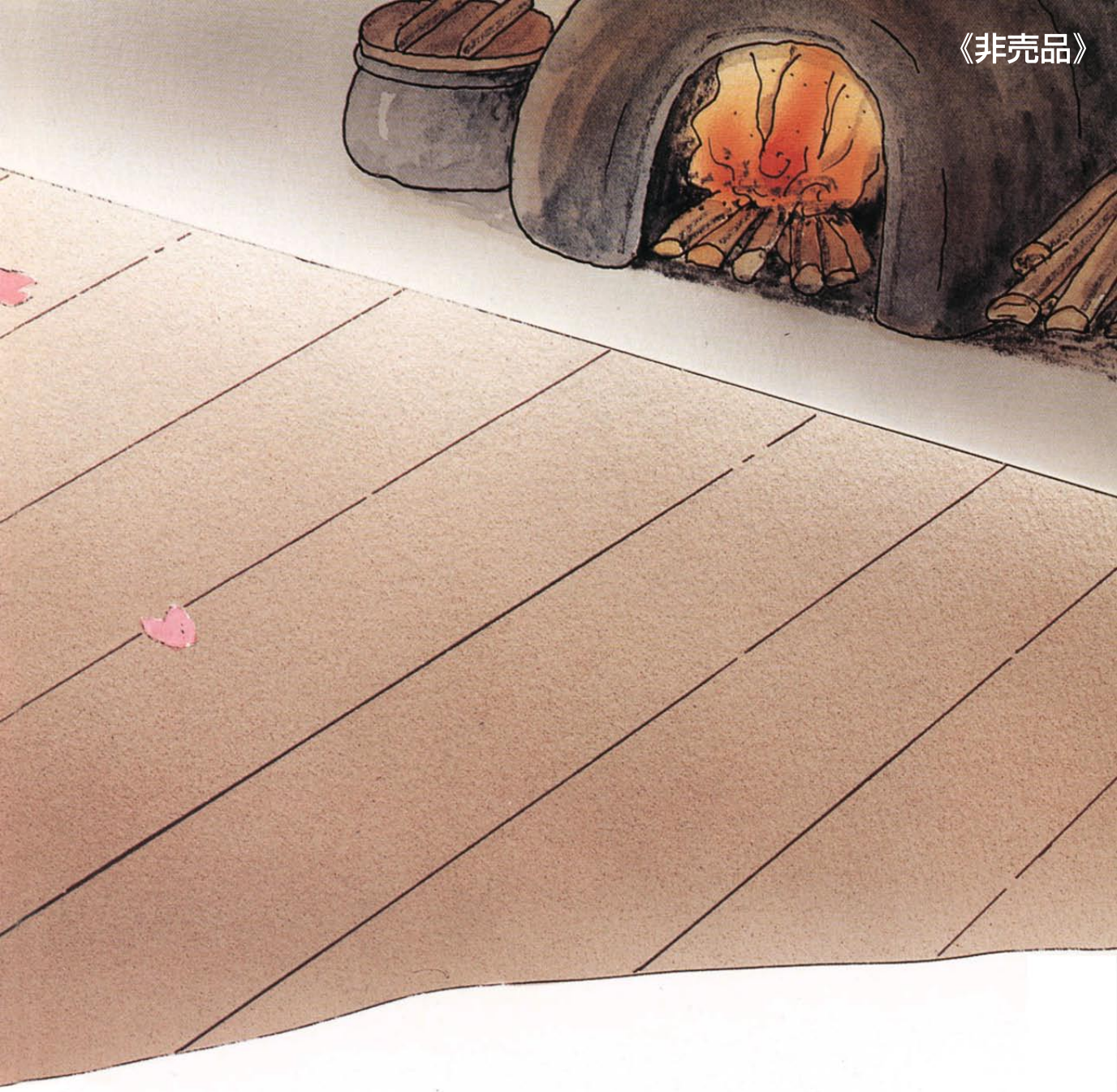


むかし

むかしの

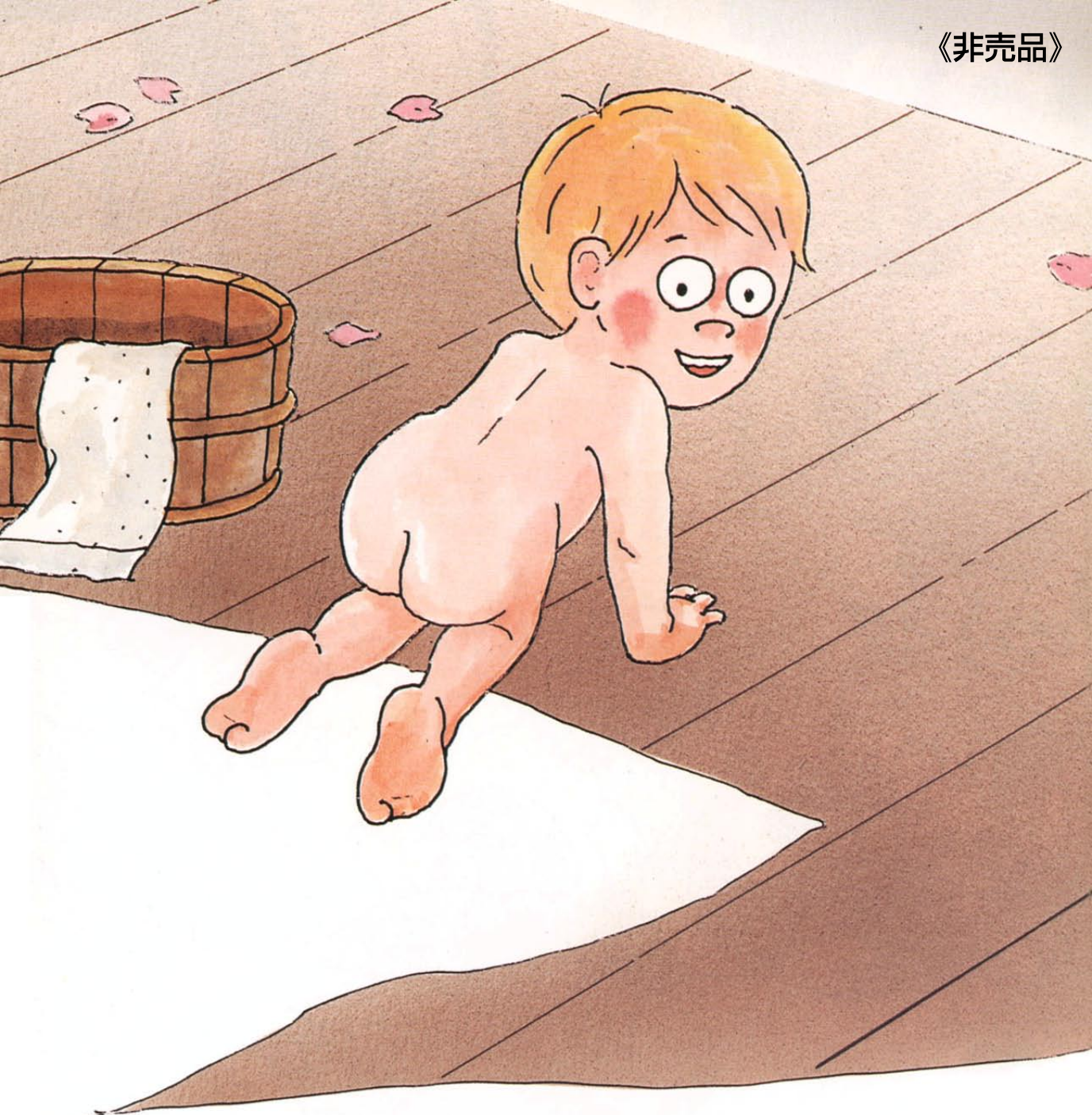
ことやねん……

《非売品》



いばらきむらの
あるいえで
おとこのあかちゃんが
うまれた。うまれてすぐ
ごそごそ　はいだした。
ふりむいて
ははおやににこっと
わろおてみせた。くちには
はがはえそろおてた。
ははおやは　びっくりして
しんでしもおた。

《非売品》



しばらくすると
こどものあたまに
つのがはえてきた。
ちちおやは
こまったことになったと
おもおた。
びんぼうなくらしを
してるのに
こんなこどもの
せわはやいておれん
どおしよおかと
ひとばんじゅう
かんがえた。

《非売品》

あくるあさ　やまへくりひろいにいこお
いうて　きたのやまに　つれていくと
こどもをほかして　ひとりで　いばらきむらへ
もどってしもおた。
　こどもは　だんだん　やまおくにはいって
たんばの　おおえやまについて
おにのなかまにはいった。
　それからは　いばらきどおじ　と
よばれるよおになった。

《非売品》

《非売品》

《非売品》

なかまが
こしらえた
かたなや　てっぽおを
きょうとの　みやこに
うりにいくと、
みやこのひとたちは
くさい　はだかんぼお　と
あいてにしてくれん。
いじめられる。

《非売品》

そのうち　だいじんの
めいれえで　さむらいが
やまぶしのすがたにばけて
おおえやまに　やってきた。
どくをまぜたさけを
おにのたいしょうに　のまして
やっつけてしもおた。
　のこったものは　ばらばらになって
ほうぼうへ　でていくことになった。

《非売品》

《非売品》

いばらきどおじは
みやこの　いりぐちの
らしょおもんで
ねるよおになった。
みつけた　みやこのひとは
おにがでたぁ　と
さわいで　あいてにしてくれん。
いばらきへ　いってみたい　と
おもうよおになった。

《非売品》

さむいふゆの　まよなか。
とおとお　いばらきにむかって
はしりだした。
らしょおもんから
いばらきへは　いっぽんみち。

《非売品》

《非売品》

ちちおやは　びょうきでねてた。
「げんきかぁ」と　こえをかけると
ちちおやは　おにがいるので
びっくりした。「あいにきたんや
げんきだしてや」というと
ちちおやは　うれしいやら　こわいやら。
ふたりは　だきつくかとおもうと
にらみあうのや。

《非壳品》

《非売品》

「まて
ひをともす」と
ちちおやがいうと
「おやこで
はなしあうのに
ひはいらん」と
どおじがいう。
ふたりは　てを
つないで
おどりだしたそおな。

《非売品》

むらびとがきたさかい
「らしょおもんのおにと
いわれてるけど
ここのこどもだす
おやじを あんばいおたのみします」というた。むらびとは
「しんぱいいらん　ときどき
もどっといで」と
やさしかった。
「いばらきは　ええとこだすな」
そおいうて　いばらきどおじは
ときどき　いばらきへ
もどって
くるよおになったそおな。

（おわり）

《非売品》

帰ってきた茨木童子の歌

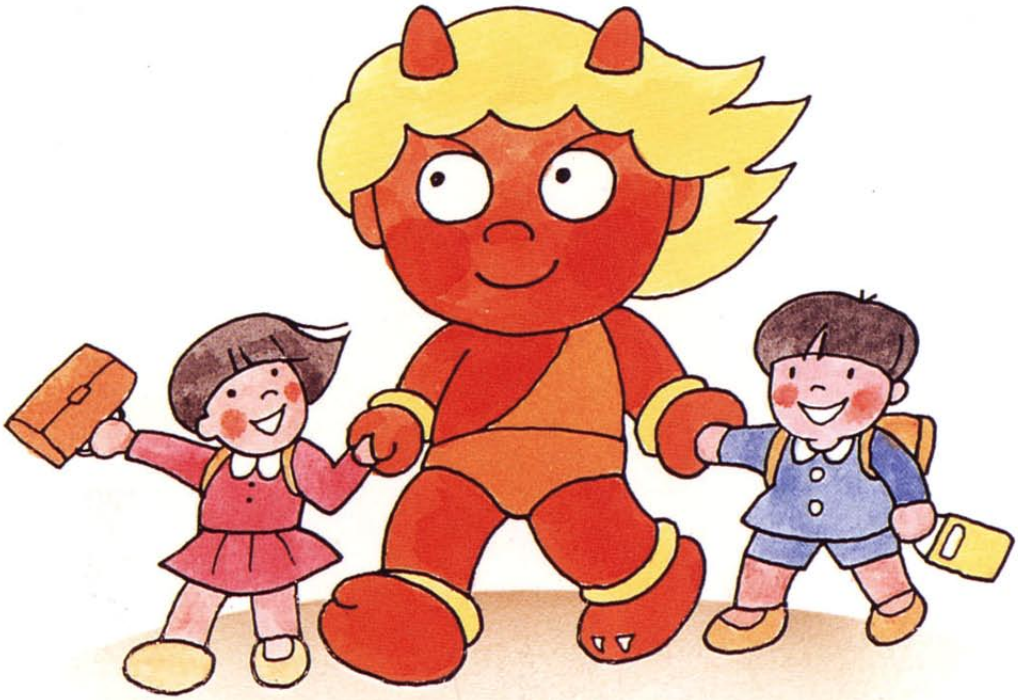
帰ってきたぞ　茨木に
まよなかのみやこ　ぬけだして
走ってもどった　茨木や
お父さぁーん　元気かぁ

捨てられたのに　よぉもどった
茨木村は　よぉなった
いつもお前を　気にしてた
童子のことを　気にしてた

ふしぎやふしぎ　もどったら
あまえるどころか　えらそうに
童子はちゃんと　しゃべってる
村の人らは　みなやさしい

おおけにありがと　むらの人
ときどきもどって　きますけど
みやこで仕事　みつけます
だいじにします　茨木を

《非売品》



発行　1989年(平成１年)11月19日
絵　　元井　進
文　　宇津木秀甫
発行責任者　茨木青年会議所

＞まちづくりのため　無料配布＜